おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト

町工場の後継者不足に向き合う、モノづくりのまちの将来像を考える

大田区は日本有数の工場集積地で、小さな工場が集まりそれぞれの持つ技術を生かして助け合いながら発展してきました。しかし、かつては9000以上あった工場も今では3分の1ほどになり、現在も年々工場数は減少しています。背景には後継者不足や、近隣の住民からの工場の音や臭いへの苦情の増加が挙げられます。その一方、日本や世界に誇れる高い技術力を持った多くの工場が今でもこの大田区には残っています。こうした現状に対し、“工場のまち”という資源を活かした、まちづくりの将来像を提案・実現していくことが当プロジェクトの目的です。

使われなくなった工場を改装して2013年にオープンした「くりらぼ多摩川」では定期的にワークショップやトークショーなどを行い、工場の方や近隣の住民、モノづくりに興味のある人々がつながる窓口として機能しています。また、今年で８回目となった、50近く工場を見学できる、おおたオープンファクトリーに合わせて、新たにシュウカツプロジェクトを立ち上げました。これは工場の後継者不足に対して、①各企業をわかりやすく紹介するパンフレットの作成②就活生向け工場ツアーの実施③工場の方々が町工場の仕事の魅力を発信するシュウカツ説明会の３つを行い、学生や若手の人々に工場への就職活動を考えてもらうきっかけを作るものです。そして、12月には全国からモノづくりを通したまちづくりを行う方々が集まるシンポジウムで、学生中心の話し合いや調査を元に大田区のモノづくりのまちとしての将来像の提案を行いました。

今年度はパンフレット作成のために工場への取材を多く行い、学生それぞれが町工場の抱える問題に直接向き合い考えるきっかけになりました。来年度はそうした経験を活かし、より多くの人々にむけて発信して、町工場への就職につなげていけたらと思います。

▪学生：11名（神谷圭祐、細野真央、渡辺翼、菊池諒、種崎夏帆、小川岳志、松永理紗、宗野みなみ、山岸匠、工藤聡太、張安 / 担当教員：野原卓）
▪連携・協力：大田観光協会、工和協同組合 ▪サイト：https://www.facebook.com/kurirabo/